

希望

チューリツヒ日本人学校便り

平成 28 年 10 月 24 日発行

第 23 号

発行人 校長 鈴木史良

一步一步進めば道が開ける

—— ジャズ・トロンボーンの色、子どもたちの心を捉える ——

学習発表会が1週間後に迫り、各学年の練習にもいっそうの熱が入ってきました。そんななか11月20日（木）の5校時、今年度2回目の講話会を開催いたしました。今回ゲストとしてお招きしたのは、日本から演奏旅行にやってこられた「ボンボンズ」のお二人です。当日の晩ウスターで演奏会があり、お忙しいのにもかかわらず日本人学校を訪ねてくださったのです。

彼女たちの手にする楽器は「トロンボーン」。あまりなじみのある楽器ではありませんが、オーケストラや吹奏楽では定番の金管楽器です。唇にあてるマウスピースで作らだした振動音を金属の管をとおして音にします。金管楽器で高音パートを担当するのがトランペット、低音パートはチューバという楽器が担当しますが、

トロンボーンは中低音パートを担当する楽器といえるでしょう。

ふだんは縁の下の力持ちともいえるトロンボーンですが、この日は主役でした。子どもたちの前に立ったお二人は、トロンボーンで軽快なジャズのメロディーを奏で始めたのです。はじめは緊張して聴いていた子どもたちですが、立ち上がって手足でジャズのリズムの刻み方を教わると、生演奏に合わせて気持ちよさそうに体をスウィングさせ始めました。トロンボーンの色を聴いたのは初めて、あるいはジャズに触れたのは初めてという子どももたくさんいました。会場がリラックスした雰囲気になってくると、子どもたちからいろいろな質問が飛びだしました。トロンボーンという未知なる楽器に興味津々。お二人はそんな子どもたちに楽器を見せ、触れさせてくれました。プロの演奏家の楽器にさわらせてもらえることなど、めったにあることではありません。

私ははらはらしながら見ていましたが、なかには実際にトロンボーンを吹かせてもらった子どももありました。2、3回スースーと吹き込む息の音だけが聞こえ、音出しは難しいと思った次の瞬間、パオーッと見事な音が出たのです。これにはみな拍手喝采！ その子にとっては忘れられない思い出になったことでしょう。

演奏してくださったのは、上杉優さん、駒野逸美さんです。お二人とも小・中学生時代にトロンボーンという楽器に出会いました。お二人には



ジャズのリズムに合わせてスウィング



珍しい楽器に興味を示す子ども

海外留学経験があることも共通していました。海外では、言葉が通じなくてもトロンボーンという楽器を通じて、音楽には国境がないということを実感したそうです。そして“一步一步進めば道が開けていく”という言葉に胸を打たれ、プロの道を歩み始めたのです。「ボンボンズ」を結成して5年。歌心のある温かなサウンドには定評があります。まだ若いお二人の今後の活躍を、大いに期待しています。

ウィルコメン！ 体験入学生

現地校がまだ秋休み中だった先週、多くの体験入学生で学校全体がにぎわいました。普段は少人数、あるいはマンツーマンの授業ですが、体験入学生が加わってくれた先週は、授業中も休み時間も、より楽しそうでした。友達がまだ秋休み中なのに、日本人学校へきて学ぶ体験入学生の皆さんの意欲がすばらしいです。全日制の子どもたちも優しく温かい気持ちで迎えていました。



学習発表会迫る ——— いよいよ今週末は学習発表会。先週土曜日にはステージ設営にご協力いただき感謝申し上げます。ステージ練習が始まり、子どもたちのボルテージも高まります。

11月の主要予定

ホームページでの公開はしておりません。ご了承ください